

## レファレンス

### コーナー

## 看護・介護をめぐる国際労働移動と女性

岸 真由美

二〇〇八年八月、前年に日本・インドネシア間で調印された経済連携協定（EPA）に基づいて、日本国内で働く介護福祉士および看護師の候補として、看護師資格を有するインドネシア人二〇五人が来日した。看護や介護・家事労働といった分野での外国人労働者の受け入れは、欧米諸国や湾岸諸国などで進んでいるが、高齢化と看護・介護分野における人材不足の深刻化が指摘される中、日本でも今後こうした動きが強まることが予想される。

世界的に見ると、看護、家事労働、ケア労働に従事する外国人労働者の多くは女性である。また、国際移住に占める女性比率が過去三〇年間に徐々に上昇しており、近年、女性の国際労働移動に対する関心は増しつつある。本稿では、看護・介護分野におけるグローバル化と活発化する

女性の国際人口移動を知ることがかりとなる資料を、本研究所周書館所蔵の和文図書を中心に紹介する。

国際人口移動と女性をめぐる現状を包括的に把握するのに役立つのが『世界人口白書二〇〇六』（国連人口基金）である。同白書は、女性の国際人口移動に付随するさまざまな問題（頭脳流出、人身売買、難民、人権侵害など）や、送り出し国と受け入れ国での影響、送金と開発の関係について網羅的に言及している。オンライン版も出版されているので、インターネットに接続できる環境があればいつでも参照できる（[http://www.unfpa.or.jp/pdf/2006\\_all.pdf](http://www.unfpa.or.jp/pdf/2006_all.pdf)）。

国際移住に占める女性比率の上昇に加え、近年の女性の国際移住に特徴的なのが、研究者らがしばしば「移民の女性化」として言及する移住パターンの変化である。従来、女性は配偶者に随伴する家族移民というケースが多かった。しかし、最近は一家の稼ぎ手として移住するケースが増えており、こうした女性の単身移住者たちは、主として家事・育児・介護といったケア労働や看護に従事している。

ミレリュ・キングマ著・井部俊子監修・山本敦子訳『国を超えて移住する看護師たち―看護と医療経済のグローバル化』（エルゼビア・ジャパン、二〇〇八年）は、世界的な看護師不足と、看護師の国際移住を引き起こす諸要因、そして、それに伴っ

て生じる現象や問題を扱っている。この中で、先進国が看護分野の労働力不足を補うために積極的に外国人採用政策を推進することが、今度は開発途上国で看護師が不足する事態を招くことが述べられている。さらに、南アフリカやアイルランドのように、流出によって自国で不足する看護師を補うため、さらに他の開発途上国から看護師を受け入れるといった労働移動の悪循環も指摘されている。

医療・介護分野における移民の送り出し国と受け入れ国の実態については、最近出版された以下の三冊がある。いずれも特に女性移民に焦点を絞っているわけではないが、貴重な事例研究として紹介する。まず、外国人労働者の受け入れ国側に関する実態調査として、多々良紀夫ほか編著『イギリス・ドイツ・オランダの医療・介護分野の外国人労働者の実態』（国際社会福祉協議会日本国委員会、二〇〇六年）がある。同書は二〇〇三年から三年にわたって欧州三カ国で実施した調査の結果をまとめたものである。次に、久場博子編著『介護・家事労働者の国際移動―エスニシティ・ジェンダー・ケア労働の交差』（日本評論社、二〇〇七年）は、受け入れ国として日本、アメリカ合衆国、スウェーデン、送り出し国としてスリランカ、インドネシア、フィリピンを事例として調査・分析を行っている。川村千鶴子・宣元錫編著『異文化間介護と多文化共

生―誰が介護を担うのか』（明石書店、二〇〇七年）は、日本、フィリピン、タイでの実態調査を踏まえ、外国人労働者が安価な労働力として受け入れられる可能性に警鐘を鳴らしつつ、介護する側・される側、そして、外国人労働者の人権に配慮した多文化共生社会の構築に向けた政策提言を行っている。

グローバル化が進む中、先進国・開発途上国の両方で女性の労働力が市場を通じて調達されるようになり、女性の社会進出によって外部化された再生産労働を移民（とりわけ移民女性）が担うようになってきている。グローバル化とジェンダーという観点から女性の国際労働移動を分析しているのが、伊豫谷登志翁編『経済のグローバル化とジェンダーとジェンダー』（明石書店、二〇〇一年）と、サスキア・サッセン著『グローバル空間の政治経済―都市・移民・情報化』（田淵太一ほか訳、岩波書店、二〇〇四年）である。

最後に、お茶の水女子大学が実施した平成二二〜平成二三年の重点研究プロジェクトの成果出版物である『グローバル化とジェンダー規範』に関する研究報告書を挙げておく。研究会およびシンポジウムの記録と研究論文を収録する他、巻末に付した参考文献が言語別・著者別に関連文献を網羅していて極めて有益である。

（きし）まゆみ／アジア経済研究所図書館